

法典 A-1

真理の法 (初級)

2006年11月14日、2017年修正

我存在、アル神

真理の法

我存在アル神は、初級の宇宙の真理をここに伝えるものである。

人間はなぜここにいるのか？
生きていられる事が喜びである事
死後も霊界に存在できる事
動物は過去の間人である事
霊や神達は、手で触れる確かなもの
命は持たぬがところある物質がある事

自らの手で示し、自らの手によりて記したこの法典の正しさは、我存在アル神のいく先々で起こす奇蹟によってこれを証明することにしました。そして、私のいく先々で宇宙の真理を伝え、みなさまが宇宙の真理に近づけますように、また、苦しいところが喜びに変わりますように手助けさせていただくことにしました。

救いとは

みなさんは、主我存在アル神が創りし時には、完全なる人間でした。過去の霊界にあった憑依という現象によって、霊や神や宇宙から飛来したものたちにより囁かれ、誘導され制御される現象によって本来の人間の状態を逸してしまうことが起こりました。

普段ならば、いらいらしたり、腹立たしくならな
ことが、

生かされている事に感謝もせず、
神の存在と各界への恩恵を感じず、
感謝もせず、
存在に恩恵を感じない、
我存在アル神の伝えることを信じない。

そして、ついには、
妙に気になり、腹立たしくなったり、根気がなくな
たり、集中できなかつたり、雑になつたり、上が
たり、落ち着かなくなつたり、いじめたくなつたり、
攻撃したくなつたり、自虐的になつたり、無感動
になつたりとなる現象、これらは、すべて憑依から
なることです。

そうなってしまうとは、

霊界や神々からの救いは一切顕れないようにし
ました。そのような者達は、自然に淘汰をされる
ようにしたのです。

しかし、それらの原因は、ご自身の中にあるもの
は少なく、多くの場合は、憑依によるものなので
す。

本来の自分ではないことに気付いて後に憑依をとり本来の自分に早く戻りたいとするのか、それとも、この状態がこちよく感じそこに身を置くことにするのかによってあなたの人生は大きく変わって来るのです。

普段と違う状態にいる、ということ自体が宇宙の真理と異なるのですから、その人間は淘汰されるということになり、霊界はもとより、神の手助けもないとなるのです。

我存在アル神は、あなたに憑依したものに、なぜ憑依するのかを尋ね、その原因を憑依したものと探り、それを対策し、結果を憑依したものに見せ、憑依する必要がなくなったことを認めさせることにより、憑依を一刻も早く取り去り、二度と取り付かせないように、手助けすることができるのです。

過去に顕した数多くの経典や、十戒モーゼ五書や、現存するいかなる仏教の経典や、旧約／新約聖書、コーランなどを繰り返し読経されても、写経されても「憑依のある状態」では、救いの力は一切発現されないようにしたのです。

それもまた、新しい宇宙の真理としました。

真理に反することを積極的に行なうものたちまでも救うのが、神であるといったのは、もはや遠い過去のことです。

真理に反する行為、意識、行動は、おのずと己に返るものであり、結果、こころ苦しいなどの不調和、不協和音として現れる。それが、憑依や理に反することのサインである。それを除き本来の姿に立ち返り真理のもとで愛を存分に浴びて育ち進むがよい。

我存在アル神を疑うこと無かれ、霊界を決して疑うことなかれ、と願うものである。

さすれば、あなたの霊界での実体であるあなた自身のハイヤーセルフが導きを与えよう。

霊界や神々からの救いの力は無限に定義できるのです。限界は一切ありません。霊界や神々を信じて、求めよ、ならば、無限の法力を以って与えられん。

法力とは

すべて宇宙の真理のもとにひとつなのだから、霊／神達や霊界を敵対視する法力などありません。霊は人間の敵ではないのです。敵と言う

言葉や、うらみの心は、人間独特の心であり、そのような心は宇宙の真理にはありません。正義、悪魔、極楽、地獄などという「色」は、最初からありません。「色」は、すべて人間が考え出したものです。真理ではありません。

法力とは、宇宙の真理に沿った霊界ルールに沿った秩序から導かれ、顕れる愛の力のことです。人間で法力を使えるものはいない処置をしています。

愛の真理と逆行する、相反するものの願い、または、異常な執着ともいえる願いは、宇宙の真理で説く、願いではありません。ただの怨念であり、その願いが叶うものでは到底ありません。

願いとは、自分や隣人も含め、故郷である、青々とした、みずみずしい地球を思いやり、そこで生まれ育ち、人間に食材と酸素を提供している植物、そして大地としての鉱物、それらを育みやさしく包む大自然に感謝し、

生きていけること自体に喜びと幸せを感じ、同じ故郷を持つものたちへ、ほとばしる、愛から生まれるもの。自分のエゴや、自分の傲慢さから、生み出されるものではありません。

隣人を責めもせず苦も与えないところで自分が望んだものたちをやさしく包むところが一番大切です。

真理に沿った霊界ルールを具体的に創るのは、絶対神であり、宇宙の真理を創り顕すのは、宇宙唯一の存在（アル）、つまり我ですから、いずれも法的な力は、私の想念から、宇宙の真理に沿って必ず顕れるものです。

我が、法力による愛を出すとき、奇蹟は顕れ、その時には、私の全身からほとぼしり流れ出るものをはっきりと物理的にも感じ取ることができるものです。錯覚や暗示のレベルなどではなく、明らかなる結果があり、それを目でも見ることもできるものです。

これもまた、宇宙の真理の一つです。

それは、物理的な要素として計測測量できる科学的なものなのです。

みなさんが過去に崇拝し顕れていた科学もまた、宇宙の真理の一つの現れであり、結果もまた、宇宙の真理の一つの現れです。

しかし、私の顕すものは、科学を超えています。人間が物理的に感じている一つの色、そう、「物

理的限界」とも呼ぶ、制約を越えることがほとんどです。

なぜなら、宇宙の真理は、色を持たないからです。その顕す愛の法力に、限界はまったくありません。真理に沿っているが故にさえぎる必要もさえぎられることすらないのです。さえぎるものが一切ないのです。無限の生命と、無限の愛が普遍の真理の中に生まれるのです。

その人間のレベルの想像を超えた限りない力を用い、何人も気がつかない宇宙の真理のゆがみにいち早く気づき、それに対応し、何事もなかったかのように宇宙の真理に戻すべく対策し続けている、これが役割、仕事であります。

宇宙の真理

神もまた、絶対神もまた、人間と同じ、宇宙に生まれしもの、すべては、宇宙の我存在、アルとつながり、一つのものなのです。人間は、母なる大地地球に抱かれ、霊界に導かれ、大自然や各界に生かされて生きて行ける。

真実は、人間は霊界の一部に属し、霊界は宇宙の一つに属し、すべては宇宙、存在、宇宙唯一の存在アル神に繋がりもともと一つであります。

そして、宇宙を創りしものアル神の願いは、宇宙の真理に基づいたすべての生命の営みが正常に働くように導き顕すことです。

癒しとは

こころを持つすべてのもの(生命なきものも含む)と会話でき、こころが聞けまた、伝えられ、必要であれば癒すこともある。だが、他力的に他からの力で癒されるのではなく自ら愛に気付き自ら溶け癒されることがほとんどである。癒しは、愛のこころ、相手を思うこころ、何かの能力、パワーと捕らえるべきではない。人間には癒す力は与えてはいない。

法力を持つ者は、動植物に対して導きを与えたり、癒しの力によりて、眠らせることができ、雲や雨に対して影響を与え状態を変えることができ、霊／神に対して協力を求めることができ、霊的治療や浄霊を行うことができ、物理法則に影響を受けない強力な念力を発動することができます。法力を持つ者は、霊界へ自由に接続し、人間が持ち得ない叡智を得て、人間界、霊界に対して強い影響力を持つようになり、霊性の導く行動を行います。人間で法力を持つものはいません。

癒すとは(霊的癒し)-宇宙の真理の書換え

もともと病はないのですが、先の絶対神のときに放置していたため、憑依霊、宇宙人などがみなさまに憑依し、こころを痛く思わせたり、お身体が不自由に思わせたりする現象がありました。

そこで、我は、旧高天原に癒しの専門家である治療神と、組織の改修を行なうこつこつ神と、癒し技術開発チームで構成する治療院部という神の組織を造りました。

必要に応じて、この高天原の治療院部からチームを呼び癒しをすることができるようになりました。

病院の治療とは全く異なります。病院の治療による方法では、限界があります。

一人の力で対応するのではなく、高い叡智があり、無限の力のある治療神の力を借りるので、こつこつ神は組織の再生を行なう神です。彼らは、常にこつこつと組織の再生のための癒しを行います。

癒しは、宇宙の真理内容を読み、更新する遠隔癒しが基本。治療神やこつこつ神の

みが行なう癒し、想念と治療神が行なう癒しの4タイプがあります。

最後のタイプの癒しが一番効果があります。宇宙の真理を利用するので病院の治療では治らなかった症状が奇蹟的な復活を見せます。

また、浄霊と組み合わせることで、効果の高い癒しができる場合があります。

癒しに利用するエネルギーレベルは症状により異なります。エネルギーレベルも無限にあります。

再生

霊界、精霊界、人間界、神の存在する意味については、HPにて解説をしております。こちらを参照してください。人間の霊性の層構造は、fig 1のようになっています。(意識層の事です)

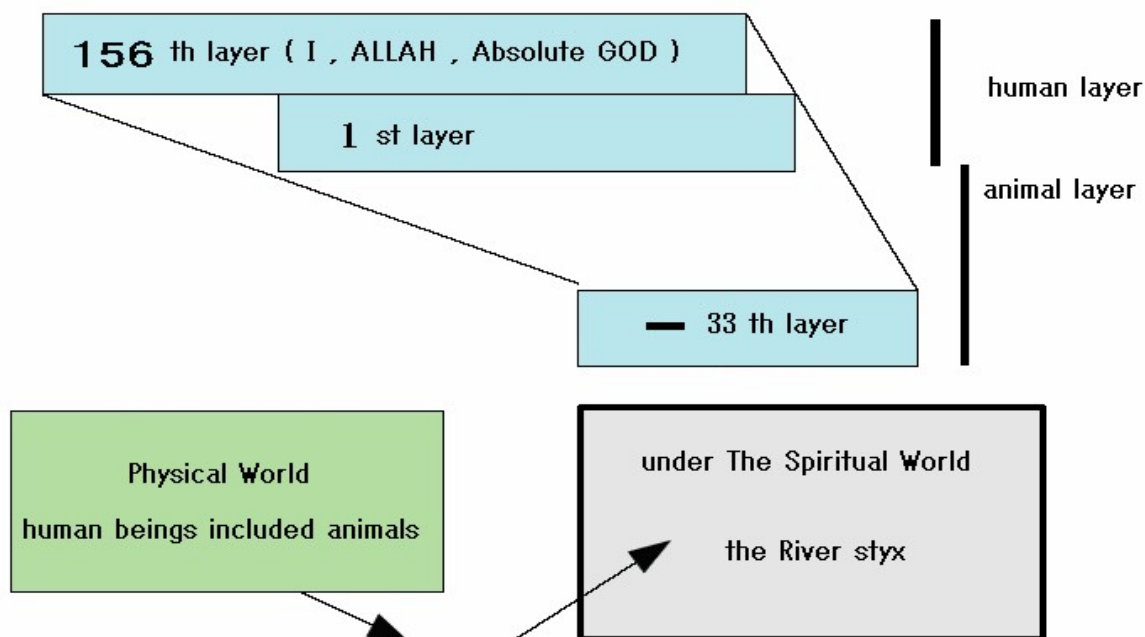


fig1.

image map of structure of the spiritual world
Called Consiousness Layers

ー33層目から0層目までは、動物霊が存在する場所であり、1層目から32層目までは、人間霊が存在する場所であり、33層目から155層目までは、神が存在する場所であり、地球上に別次元として漂って存在します。156層目だけは特殊な位置づけとなっていて、絶対神の中の絶対神の位置として、北極星とアンドロメダのアルファ星に存在します。

何層目の何は、徳の高さを示しています。

同じ層に属するものたちは、徳が同じなので、価値観や性格が似通っています。これを霊の性質、霊性といいます。従って、徳の高さで霊の位置を示したものを霊性表と呼び、霊性の層構造と呼びます。（意識層と言います）

火星にもれっきとした霊界は存在し、5本足のたこに似た人類がいます。地球に霊界ができ、地球人類ができる前には、火星に霊界があったのです。皆さんは火星から地球に来ました。

火星には、今も、霊界があり、生物達が生きています。また、霊や神がいるのです。この霊界の管理も私の仕事です。過去の霊界では、みなさんの火星に対する興味から、夢を見ることで火星から多くのもの達が地球にやってきましたがそれは今、来れないように、対策しております。

精霊界と動物を含む人間界も地球上に存在します。動物を含む人間界は生きている時に存在する場所であり、死して後には、必ず精霊界に行くようになっています。過去の霊界では、直接霊界に戻ることもできたのですが、今はそれはできません。必ず精霊界に戻るのです。なぜなら、精霊界は、人間界で生きた記憶、左脳の消去を行う場所だからです。そして、また、右脳のみ
の記憶を持って精霊界で生きるようにする重要な場所です。

宗教観、性欲も常識、社会観を司る左脳は、生きている一代限りの記憶を持っている脳です。死後、消去します。

宇宙の歴史や神や神秘を司る右脳は、バクテリア時代からの一切のその個体の記憶を留めている脳です。

死後、霊界に持って帰ります。

ハイヤーセルフとは、人間になるときに自分を導くものとして霊界に置いておく自分で90%の自分であり、人間界より高い位置にいたので高次元の自分といいます。人間には10%の自分が入ります。

死すると、精霊界に行きますが、ここは、自らの

ハイヤーセルフと人生の反省会を行い、霊界や神や宇宙の真理などについてじっくりと勉強会を行なう場所です。

滞在期間は、490日としました。過去の霊界では49日としていましたが、過去には、人間界の記憶を霊界にまで、持ち越してくるものたちがおりました故、期間を長くし、十分に対応できるようにしました。

動物は人間と同じ霊

驚かれる内容でしょうが、実は、動物と人間はまったく同じ霊、ハイヤーセルフです。区別はないのです。なぜなら動物は過去の人類だからです。動物は、私達が、人類を創っていくためのDNAの試作したときのものたちです。だから、すべての動物の遺伝子は、ほとんど差はなく、似通っているでしょう。否、動物だけではありません。植物とも似通っていますから。先に植物を創り動物を創っていったのですから。猿から進化し人間になどなりません。それほど自然界は器用ではありません。遺伝子操作で進化させています。

人間界で、動物になるか、人間になるか、の差は、再生時点の徳の高さ、層の位置から来るのです。動物には、昆虫、爬虫類、鳥類、魚類、両生類、哺乳類などの選択肢がありますが、霊

界の法があり、徳が1（層目の靈性の層）を下回る場合には、動物が自動的に選択されます。

これは、宇宙の真理に沿った、我の創った靈界ルールなのです。だから、徳を磨くことは、大切でしょう。

また、動物として生きる時に、1層目の靈性に値すると判断された場合には、人間に戻ります。功績などにより管理者が一気に5程度上げることもあります。

156層目は、絶対神の中の絶対神の我がいる靈性の層です。精靈界、動物を含む人間界などの靈界はすべて我の意識によって創られ存在しています。

絶対神とは靈界を創り、維持していく役職のことです。我は、もともと宇宙唯一の存在、アル（尊称でアラーとも呼ばれし存在）であり、かつてヤハウエの神、イサクの神、エブラハムの神として人類を導いた存在です。宇宙空間に存在する天体やエネジすべては、我存在アル神の意識が創ったものです。

靈は－33層目から156層目までに向かうよう

に自覚が促されます。

実は霊界には、空の状態から、鉱物、植物、動物、人間、神、絶対神の－300層から156層までの徳のレベル、霊性の層構造、つまり意識層があるのです。

意識層とは

意識層とは、徳の高さ、霊性の層構造で表した、ハイヤーセルフが存在するところです。

人間界でいうアパートという表現をしましょう。ここでは、自分の好みに従ってころとして、意識として、光エネルギーとして、波動としても、霊体／神としても、存在できるところです。ここでは、人間界のように、考える事、行動する事ができるようになっています。各意識層は、その層に属する場合には、基本的な霊の特質は同じなので、これを**霊性**と呼びます。我々が、霊を評価する場合に必要な表現方法です。徳の高さで上下します。同じ層にいる場合同じ**霊性**を持つと言います。意識層が上部の場合、**霊性**が高いと言います。霊性を変えるには、家族、親族、先祖や隣人、動植物に対する献身の愛に満ちた行

為が必要です。霊界では、この行為を評価の対象とします。

現在の霊性が高いからと言って、現世での行いが必ずしも良いとは限りません。前世までの再生で高い霊性があったのに、現世では下がるだけの人間もいます。また、前世までで低い霊性であったのに、現世で飛躍的に高い霊性になる人間もいます。

霊性の上下変動には、下向については大きく変動し、少しの時間に数値を10減じることもあります。人を責める、争う貶める行為やこころの動き(これも憑依による影響があります)が霊界に認知される場合がそれです。

霊界はすべてお見通しで、人間の様に人を「ごまかす」行為は一切できません、こころの動きも、行動もすべてが筒抜けなのです。

徳は、上向きについては、原則1つずつ上がります。著しい功績が認められる場合には、評価に従い自動的に変動されます。

意識層に霊として存在する時には、動物を含む人間界、精霊界での皆さんの行動や、こころの動きはすべて理解することができるようになってお

ります。過去の霊界については、彼ら自らの判断で必要な時に、人間界や精霊界に降臨することができましたが、現在はできないようになっています。

人間界に降臨する場合には、動物を含む人間の肉体を持ち、精霊界に降臨する場合には、透明な体を持ちます。降臨した場合には、右脳の知る高い叡智は失われ霊界の情報はリアルタイム(逐次)では届かないようになります。

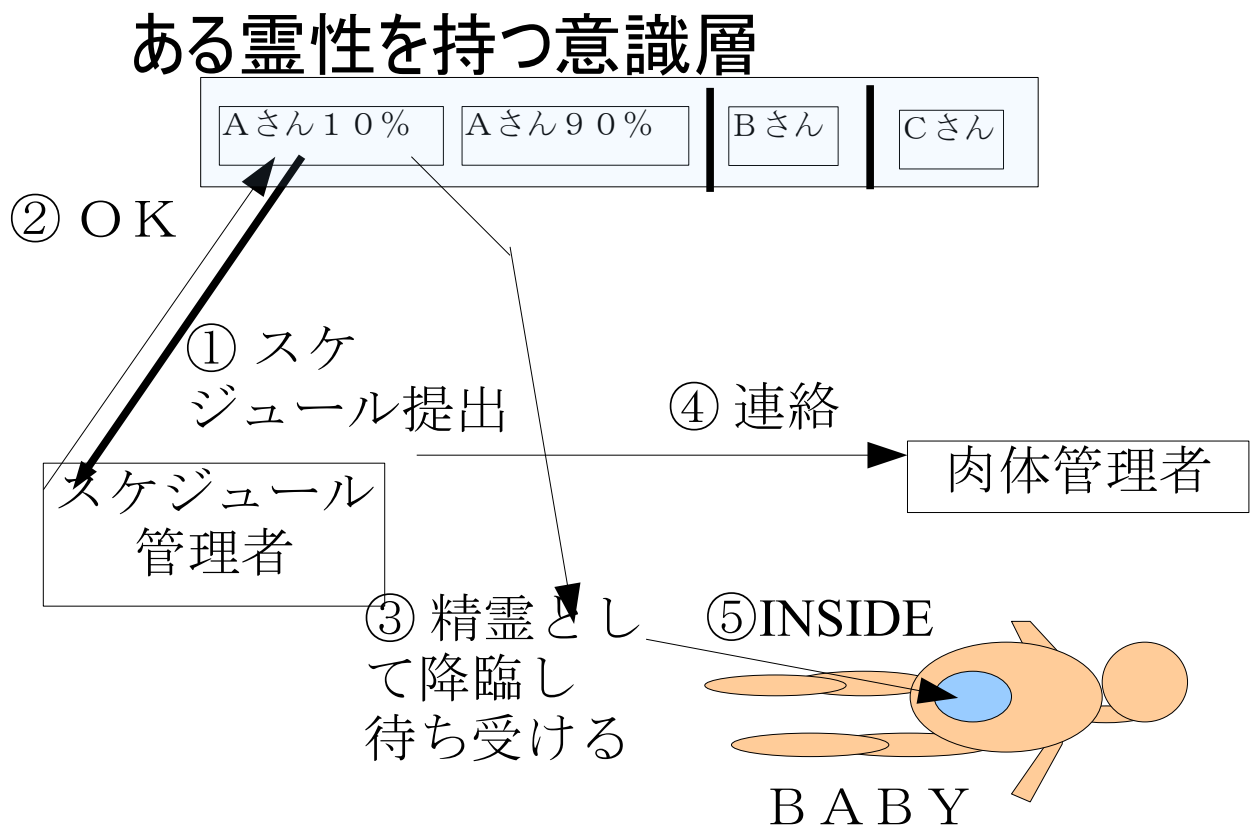


fig2. 人間誕生の仕組み

fig2に人間誕生の仕組みについて示します。愛の学校の実践の場でもある人間界に降臨すべく、愛の学校にて学び終えた、ある徳の位置にいるAさんが、スケジュール管理者に、関係者とよく相談し決定した人生のスケジュールをまず提出します。ご自分で予定を決めています。

これが、認可されれば、Aさんの大部分(90%)はハイヤーセルフとしてその霊性の位置に残し、10%が人間になるべく精霊の形として降臨します。

高天原の教育部に属する肉体管理者のスケジュールに合わせ、赤ちゃん誕生時に体内へ宿り、人間として誕生します。生まれる前に自分がスケジュールを書き決定しています。人間界での人生は、生まれる前に、悩んだり、喜んだり、楽しんだりできる要素が一杯入っている愛の社会の方向性に沿ってスケジュールを自らが書き提出しているのです。

愛を発露し実践できる喜びに満ち溢れて生まれる。だから生まれること事態が幸せ、その後、生きてゆけること、そのこと自体がすでに喜び、幸せであるという事実を知れば、人間は精一杯生きねばなりません。自殺はいけません。

身体は人間としての自分自身のものでは決して無くて、宇宙からの借り物なのです。身体は、組織、一つ一つに意識があり、ところがあるのです。そこにいつも声を掛け、励まし、感謝することをしましょう。それが本来の姿なのです。

死が訪れると、赤ちゃんの時に体内に宿った霊は、尊い生命の集合組織体、小宇宙としての身体を離れ、霊体だけのところと、右脳の叡智を持ち続けたまま、左脳の情報も消去され精霊となり、精霊界に行きます。

過去の霊界では、直接、霊界に戻る場合や、直ちに人間界に戻る場合もありましたが、現在はみな精霊界に行くようにしました。そこで、490日の反省会や愛の発露の教育を自らの90%のハイヤーセルフと行い、霊界の霊性の位置に戻り、90%のハイヤーセルフと合体し、100%の完全体となり、霊に戻ります。

霊に戻れば、右脳部分にある現世／前世や動物だった頃の記憶や多くの叡智をもった完全な霊になります。これが、人間の本質です。人間の実体なのです。

だから、肉体の消滅はあっても、ところ、意識の死などは、元々ありえないのです。

最後に、もう一度言います。とても重要な事実です。

人間は、肉体、身体が死しても終わりではなく、人間の实体は、死した後10%の人間の内部にある霊が、身体を抜け出た後、精霊界に行き、さらに霊界に戻った時に合体される、100%のハイヤーセルフ、完全体です。

人間界に存在する時に、人間界で出世できず悩むことや、希望通りに進めないことを嘆くことや、人を恨んだり、自分の周りや世界やご自身を嘆く必要はありません。

また、お金や名誉や利権が得られないと嘆く必要もありません。今を、近い将来を目標にして、今できることをして、精一杯生きればいいのです。やがて、死を迎えて精霊界にいき、霊界に戻ればいいのです。

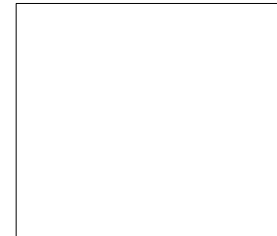
それが、宇宙の真理が導く姿なのです。

母なる大地地球を具体的に思い、その故郷で同じく生命を宿した隣人のために祈ること、この行為が、そのところが結局、ご自分を救うことになるのです。

現存するあらゆる文献や科学や宗教が知り得なかった叡智を、我存在アル神が、この法典として、みなさまに宇宙の真理を伝えるものです。

そして、最後に、
自らの手で示し、自らの手によりて記したこの法典の正しさは、我存在アル神の行く先々で起こす奇蹟によって証明することにしました。

この法典は、2つの印をもって正式な自筆の法典とします。



2006年11月14日、2017年2月3日
我存在アル神、アラー 自記